国際学院新聞

学院創立特集号
第56号
学校法人国際学院
〒330-8548
さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048(641)7468
FAX 048(641)7432
インターネットホームページアドレス
http://sc.kgef.ac.jp

主なニュース

オーストラリア、カナダ、国内研修 ……2面
実習日誌（健康栄養学科・幼児保育学科）…2面
特集 学院創立50周年 寄稿 ……3～5面
特集 学院創立50周年 ごあいさつ ……6面
特集 学院創立50周年 論説 ……7・8面
五葉祭、味彩コンテスト、幼児絵画展、ほか学内諸活動 …9面
インターハイ、進学合宿、高等学校諸活動……10面

「人づくり教育」の歴史

学院創立50周年

百周年に向け新たな一歩

学校法人国際学院 理事長・学院長　大野　誠

ここに、国際学院創立50周年を迎えることができましたことは、関係各位をはじめ教職員一同のご支援とご協力の賜物であり、心より厚く感謝し御礼を申し上げます。

国際学院埼玉短期大学は、開学30周年、国際学院高等学校は、開校15周年を迎え、平成25年からは中高一貫教育校として中学校を開校することができました。この間を顧みれば、戦後の復興から高度経済成長期を迎え、世界の中の日本が注目されようとしていた昭和38年に、埼玉県知事公認の「大宮国際料理学院」、昭和41年に「富士服装学院」を開校し、その後この2校を発展的に解消し、調理師免許・栄養士免許が取得できる衛生部門の学校、並びに幼稚園教諭免許・保育士資格が取得できる専門教育部門の学校を設置しました。また、昭和51年には、高等学校卒業以上の者が入学できる二年制の「国際調理師専門学校」を開校し、更に昭和58年に「国際学院埼玉短期大学」を開学、昭和63年に開校した「国際学院伊奈高等専修学校」を平成10年に「国際学院高等学校」として新たに開校し、平成14年からは高等学校に通信制課程を設置、平成25年からは中高一貫教育校として中学校を開校しました。

この間、オーストラリア、カナダ、フランスの5校と教育提携、姉妹校提携の締結に至り、中学校高等学校はユネスコスクールに認定されて積極的に国際交流を発展させています。

この創立50周年を節目のスタートとし、教職員一同これからも更なる努力を積み重ね、皆様のご協力とご指導のもと、創立100周年に向けて新たな一歩を踏み出し、前進して参りたいと存じます。

（詳細は6面）

さいたま市役所で記者会見

さいたま教育コラボレーション協定締結

国際学院埼玉短期大学では、平成25年6月4日にさいたま市教育委員会と「さいたま教育コラボレーション協定」を締結し、短期大学とさいたま市が相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行うことにより、学校における食育の推進、栄養教諭養成の充実、栄養教諭の資質・能力の向上及び未来に生きる子どもたちの望ましい教育環境整備を推進していくことになった。

この協定の締結は、さいたま市役所において大野博之学長とさいたま市教育委員会の桐淵博教育長によって行われ、その後、共同記者会見を開き、その模様は、埼玉新聞やテレビ埼玉で報道された。具体的な連携内容としては、さいたま市教育員会は、栄養教諭を目指す学生へのフィールドスタディーの場を提供することとして、小・中学校の授業でのアシスタントティーチャーや土曜チャレンジスクールでの学習アドバイザー、教育委員会が委嘱する食育研究校の研究発表会への短期大学学生の参加を計画している。

「食育」など実践的研究・活動を推進

共同記者会見の模様（中央左から大野学長、桐淵教育長）

また、短期大学は、さいたま市が行う栄養教諭や学校栄養職員・栄養士を対象とした年次研修や給食調理業務の担当者を対象とした研修会等に本学の教授等を派遣することとしている。さらに、児童生徒の学習や学校教育の充実に係る事業として、親子料理教室等も計画し、学生が主体となって活動し、成長することのできる地域貢献の機会を、この協定により拡充していくことが期待されている。

（詳細は8面）

さいたま市長と意見交換会

学生が市の未来語る

平成25年1月25日、清水勇人市長をお迎えし、「さいたま市の強み、弱みとは、また将来を見据えた中で強さを伸ばし・弱みを改善するためにどうしたらよいか」をテーマとして本学幼児保育学科、健康栄養学科の学生、1、2年生8名との意見交換会が行われた。

学生からは、「この会に参加するにあたり改めてさいたま市について調べてみたところ、これまで知らなかったいろいろな面を発見することができてとても勉強になった」、「食をテーマにおいしいもののあふれる街づくりをするとよいのではないか」といった意見が述べられた。

市長からはそれぞれの意見に対し、丁寧なコメントが述べられ、おおよそ1時間にわたる意見交換会を終了した。いずれの学生も自分の意見をしっかりと述べることができ、充実した中身の濃い会となった。

自らの世界を広げ、夢を実現する「中学校の取組」

体験授業で韓国の民族楽器の演奏に挑戦

世界の人々と共に力を合わせて、地球的規模の課題解決を目指すグローバルリーダーの育成が、国際学院中学校の教育目標だ。「勤勉性を備えた、知的に正直な青年」であれの校長の言葉通り、様々な体験学習に挑戦している。

例えば、ユネスコスクール加盟校として諸外国との交流活動（台湾中高生・高校の留学生・マレーシア、韓国の方等）、大学出前講座（英会話・科学実験の受講）、地域生涯学習開放講座（小学生対象「理科実験講習会」）等である。一人ひとりの生徒が夢の実現に向け、生きて働く力を身に付けるため頑張っている。

高等学校女子バレーボール部

表彰台を独占

ビーチバレー女子ジュニア

平成25年7月13日、越谷市ホワイトビーチで行われたビーチバレー女子ジュニア選手権埼玉大会で、国際学院高等学校女子バレーボール部から3チームが出場した。2年武石咲さん・横井文寧さんペアが優勝、1年山崎藍夏さん、中森美里さんペアが準優勝、3年村田菜生、後藤なつみさんが3位と1～3位を占めた。

ビーチバレーはオリンピック種目に採用されてから、U―21の世界選手権の参加国も増え、ジュニア（高校、中学）のカテゴリーも人口が飛躍的に増加している。本校では4年前から取り組み、2度全国大会に出場を果たした。武石さん・横井さんペアは全国大会ベスト8を目標として練習に取り組むも、残念ながらあと一歩で目標を果たす事は出来なかった。しかし、両名共来年度もチャレンジし、上位進出を狙うとの決意を固めている。

（詳細は10面）

中核的専門人材養成事業に選定

食分野で日本と地域を再生

短大が人材育成に取り組む

文部科学省が行う平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」に国際学院埼玉短期大学が申請した産学官コンソーシアム「食関連産業の成長と健全な食生活の普及を牽引する中核的専門人材の育成」及び職域プロジェクト「寿司専攻コースの制度構築及び実践」が選定された。今回は、全国の大学、短期大学、専修学校等の教育機関から107件の申請があり、その中から84件の取組み（コンソーシアム・20件、職域プロジェクト・64件）が選定され、本学はその中の2件で選定された。

この事業は、産業・社会構造の変化やグロール化等が進む中で、国際競争力の強化や地域活性化など我が国経済社会の一層の発展を期すために、経済再生の先導役となる産業分野等の雇用拡大や人材移動を円滑に進めるとともに、個人の可能性が最大限発揮され、日本再生・地域再生を実現する人材の育成を目的としている。

このため、大学、短期大学、専修学校等の教育機関と産業界が、環境・エネルギーや医療・福祉・健康などの成長分野等において、中核的役割を果たす専門人材養成の取組みを先導する産学官コンソーシアムを組織し、職域プロジェクトで全国的な標準モデルカリキュラム等を開発・実証し、社会人、学生・生徒等の就労、キャリアアップに必要な実践的な知識・技術・技能を身につけるための学習システムを構築することとしている。

（詳細は8面）

敦照

「大宮」の地名は、氷川神社を「大いなる宮居」と称えたことに由来する。この社は、須佐之男命、稲田姫命、大己貴命を祀り、二千有余年前の第五代孝昭天皇の時代に創設されたと言われている。現在、氷川神社名の社は、埼玉、東京、神奈川に二百八十数社あり、大宮の氷川神社は、その中心であることから「武蔵一宮」と呼ばれ、関東一円の信仰を集めている。▼師走の風物詩にこの氷川神社の大湯祭（酉の市）がある。中山道から延びる参道は、夕方になると賑わいのピークを迎え、千を超える露店の裸電球の光の中に、招福を願う拍手と掛け声が響き、巷の喧騒と別世界を創出する。▼この祭が行われる十二月十日は、学校法人国際学院の創立記念日でもある。「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の建学の精神と「礼を尽くし、場を清め、時を守る」の教育方針のもとに半世紀に亘り「人づくり」の教育を実践し、一万八千人を超える学生・生徒を社会に送り出してきた。▼昭和二十二年に制定された教育基本法は、平成十八年に改定され、その前文に、「公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」を目指す教育を推進することが新たに記された。▼継続は力なり。本日の創立記念日を新たな起点として、「自ら学び他者の幸福を追求できる人」、「国際社会の中で尊敬される人」の育成を目指し、国際学院の「人づくり教育」のさらなる一歩を踏み出したい。

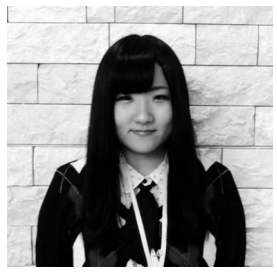
海外研修

異文化体験から学ぶ

オーストラリア研修を終えて

楽しかったホストファミリーとのふれあい

オーストラリア研修実行委員長
菊池　彩花（幼児保育学科２年）



オーストラリア研修を終えて強く印象に残っていることは、ホームステイと幼稚園視察です。オーストラリアの家庭で実際に過ごしながら英語での会話に戸惑いましたが、勉強した成果も発揮したいという気持ちもあり、ホストファミリーの方々と楽しい会話を心がけました。オーストラリアでも日本文化として馴染みのある折り紙をしながらコミュニケーションを図ることができたと思います。また、幼稚園視察では子どもたちと手遊びやダンスを踊りながら楽しい時間を過ごすことができました。

今回のオーストラリア研修では、委員長として組織をまとめる大変さを実感すると共に仲間と協力しながら様々な課題に取り組んだことによって成長することができたと思います。

カナダ研修を終えて

英語コミュニケーションに感動した12日間

カナダ研修実行委員長
谷塚　祐美（幼児保育学科２年）

カナダ研修は、幼児保育学科７名、健康栄養学科４名の計11名で12日間のホームステイを経験しました。平日はバンクーバーアイランド大学で英語の授業を受けました。先生方はとても親切で素敵な方々で、授業はもちろん全て英語で行われました。ショートスピーチやゲームなど、遊びながら自然に英語を話したり聞いたりできる環境で、日々英語力が高まるのが実感できました。

また休日は、ホストファミリーと様々な場所に出かけ、美味しい食事を頂きながら美しい自然を見て触れて、毎日本当に充実した日々を過ごしました。沢山の思い出ができたことにより、ホームステイ最終日にファミリーとお別れしたした時は、涙が止まらずとても辛かったです。

英語の勉強はもちろん、ホストファミリーや心優しい方々との交流は、私達の感性や考え方を一回りも二回りも大きく成長させてくれました。もっと英語を勉強して、もう一度カナダに行きたいと強く思います。沢山の素晴らしい出会い・経験を大切にして、これからも色々なことに取り組んでいきたいです。

国内研修を終えて

会津の方々の優しさに感動

国内研修実行委員長
永田　誠（幼児保育学科２年）

国内研修は本学の建学の精神及び教育方針をもとに、規律正しい集団行動の中で協調性、実行力、責任感を身につけ、社会人として必要な態度や心構えを養うことを目的として行われました。そして、今年度は「日本文化と国際理解」の授業の一環として福島県の会津若松市を訪ねました。

福島県の名所でもある鶴ヶ城や御薬園では文化や伝統を感じることができ、班別行動では伝統工芸を体験することができました。分からないことがあれば何でも教えて下さる、そんな会津の方々の優しさに感動することもありました。国内研修を通して様々な体験をしたことで、学科やクラスの壁を越えて思い出に残る研修にすることができました。会津で学んだ「文化・伝統」をこれからの学生生活や卒業後の進路に活かしていきたいと思います。

国内研修

専攻科「外国事情を通じて」

異文化に触れた研修

専攻科研修実行委員長
佐藤　朱花
（専攻科健康栄養専攻２年）

横浜中華街の歴史～外国人居留地について～をテーマに事前学習を行いました。横浜中華街は、約１５０年前の横浜開港が始まりとされ、当時は外国人居留地が存在しており、現在との違いについて把握することを目的として研修に臨みました。

研修当日は、横浜開港記念会館や横浜開港資料館で調査を行い、横浜中華街で昼食を堪能し、食文化に関する現地調査を通して横浜中華街の歴史や文化などを学ぶことができ、実りある研修となりました。

外国事情及び横浜研修で学んだことをこれから活かしていけるよう努めたいと思います。

実習日誌　実習から実践力を身に付ける

栄養教諭の教育実習

中学校での貴重な体験

健康栄養学科　栄養士専攻２年
井草　愛美

私は九月下旬から十月上旬の間、栄養教諭の教育実習を中学校で行いました。教育実習では、実際の現場でしかできない貴重な体験や、生徒とコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。特に印象深いことは、カルシウムについて研究授業を行ったことです。最初は、自分が話している内容について生徒がきちんと理解をしているのかとても不安でした。しかし、生徒たちは積極的に質問をしてきたり、何よりも前を向いて私の話に頷いてくれたり驚いてくれる反応がとてもうれしく思いました。

一週間という短い期間では学びきれない事がたくさんありましたが、今回の教育実習でさらに栄養教諭の重要性を感じることができました。この経験を今後に活かしていきたいと思います。

小学校での教育実習

新たな課題発見で充実の一週間

健康栄養学科　栄養士専攻２年
川西　里実

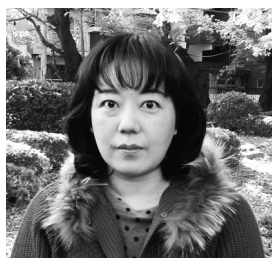
私は、母校である加須市立騎西小学校で一週間の教育実習をさせて頂きました。担当学年は5年生で、大半の時間を一緒に生活しました。実習期間中は、担当クラスや家庭科の授業参観や、給食時間における配膳及び食育の指導を行いました。

食に関する指導を通して、臨機応変に対応していく難しさを痛感したと同時に、決められた時間内に授業を行うことの重要さを実感しました。また、子どもたち自身が答えを見つけられるように導くことが、教師の役目であることを学びました。子どもたちの将来の食生活に良い影響を与えるために、栄養教諭は重要な存在です。今後は指導者の一員として活躍できるよう、日々勉学に努めたいと思います。

幼稚園実習を経験して

綿密な準備の大切さを実感

幼児保育学科２年　**野崎　千里**



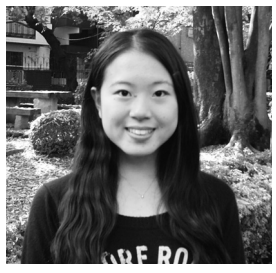
私は一・二年次と同じ幼稚園で教育実習をさせて頂きました。実習前には３～５歳児の子どもの発達に合わせて絵本やペープサートなどを用意しました。毎日、担任の先生とご相談をしながら積極的に弾き歌いや紙芝居・製作などの部分実習をさせて頂きました。多くの機会を頂いたことに大変感謝しております。責任実習では、自然の不思議さや化学に興味を持ち始めている５歳児クラス様子を見て、「万華鏡製作」を主活動にしました。万華鏡の中に入れるビーズやカラーセロファンを工夫して、自分だけのオリジナル万華鏡を作り上げた子どもたちは友だち同士で交換して眺めることを楽しんだり、どうすればさらに綺麗に見えるかを発見して喜んでいました。

教育実習を通して、子どもたちが主体性を持って楽しく活動するためには、綿密な準備が必要であると実感しました。また、保育者としての責任の重さを改めて認識致しました。今後もご指導頂いたことを忘れず、子どもの心に寄り添うことのできる愛情あふれる保育者になるために努力をして参ります。

保育実習を経験して

子どもの感性を実感した２週間

幼児保育学科２年　**中田　萌**



今回の実習では絵本の読み聞かせを自らの課題として取り組みました。０歳から５歳まで、全てのクラスを年齢ごとに実習させて頂き、心と身体が次第に発達していく姿を実際に感じながら、状況に応じた先生方の関わり方も学ぶことができました。絵本の読み聞かせは、各年齢に適した絵本を事前に準備し、導入から何度もイメージトレーニングしながら練習しました。また、手作り紙芝居を作製して読み聞かせを実践するなど、子どもたちが興味を持って取り組めるよう出来る限りの工夫を試みました。

２週間という短い時間でしたが、遊びや活動などを通して、多くの子どもたちとの関わることで、子どもらしい、子ども特有の感性を保育現場で実感しました。

施設実習を経験して

仕事にやりがい感じ充実の日々

幼児保育学科２年　**小島彩也香**

私が実習でお世話になった施設は、知的に障がいがある方が利用される宿泊施設でした。同施設では利用者の方に適した支援のもとで社会復帰、自立を目指しています。実習中は支援員の方から様々な説明があり、その内容を全て覚えるのが大変でしたが、実際に利用者の方々と接するうちに知的障がいのことや、利用者の方々を理解したいという気持ちが強くなりました。実習当初は緊張もありましたが、１日の流れを把握すると利用者の方々とのコミュニケーションが楽しく感じられるようになりました。

施設実習を経験して福祉の仕事にやりがいを感じ、利用者の方に喜ばれるような支援ができる職員になりたいと思いました。卒業後は同施設の職員として、利用者の方々のことを一番に考えて働けるよう一生懸命頑張りたいです。

一流ホテルでの校外実習

２週間の貴重な経験

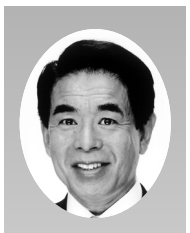
健康栄養学科　調理師専攻２年
大木　瞳

私は平成二五年二月七日～二月二〇日の期間、パレスホテル大宮、西洋料理の厨房で校外実習をさせていただきました。

バイキングの準備や片づけ、提供される料理の仕込みを体験させていただきました。お客様の前に出るときには、たとえ実習生でも社員として見られていること、常に身の回りを綺麗にすること、手際よく作業する方法などを学びました。

この実習を終えて、自分の包丁技術と、コミュニケーション不足を痛感しました。これらのことを向上させ、就職してからも役立てるように努力したいです。今回の校外実習では仕事の大変さだけでなく、たくさんのことを学ばせていただき、本当に良い経験となりました。ご指導下さったパレスホテル大宮のスタッフの皆様に感謝申し上げます。

祝　学院創立50周年



優れた人材育成に期待
私学の個性を十分に発揮

文部科学大臣　下村　博文

学校法人国際学院が創立五十周年の良き日を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

国際学院は、女子教育の必要性と食生活の改善向上という理想の下、昭和三十八年に「大宮国際料理学院」を設立されたことに始まると承知しております。以来、建学の精神である「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」に基づいた教育を行い、これまでに一万八千人を超える卒業者を輩出されていると伺っております。また、この間、時代の変化を踏まえた教育の充実を図られ、現在、短期大学、高等学校、中学校を擁する学園として発展を続けておられます。大野誠理事長をはじめ、歴代の役員、教職員、卒業生並びに関係の皆様のこれまでのたゆみない御努力に深く敬意を表します。

我が国は、急激な少子高齢化の進行、地域コミュニティの衰退などの社会の急激な変化や、東日本大震災及びそれに続く各地での自然災害、また、政治経済における国際的な変動など、国内外にわたり多くの困難や課題に直面しています。今後、こうした課題を解決し、我が国が持続的な発展を遂げ、活力ある社会を実現していくためには、社会の将来を自ら切り開き、創造できる人材の育成が必要です。

このような中で、我が国の発展に重要な役割を担う私学は、それぞれの学校法人が個性や特色を十分に発揮しながら教育の質を高めていくことが今後一層重要となります。

国際学院におかれては、建学の精神・教育理念に基づき、「教養ある専門職業人」を育成するため、問題解決型の学習により、問題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などの諸能力や人間性の向上を図るための取組など、多様な教育プログラムを展開されておられるとともに、高等学校が平和や国際的な連携を実践する学校として「ユネスコスクール」に認定されるなど、時代に対応した新たな取組も積極的に進めておられます。また、創立五十周年を迎えるに当たり、建学の精神を礎に、国際社会の中で尊敬される「人」の育成を目指すため、「学校法人国際学院中期ビジョン」を策定し、設置校の教育機能強化を図るための取組などを行う予定と伺っております。

今後ともこうした取組を通じ、様々な分野において活躍し、我が国のこれからの発展に貢献できる優れた人材が育成されることを期待しております。

国際学院が、創立五十周年を契機として、築き上げてこられた伝統と実績の上に、役員、教職員並びに関係の皆様の一層の御研鑽と御尽力により、今後更なる発展を遂げられますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

不断の熱意と努力に敬意
明日の埼玉担う人材育成

埼玉県知事　上田　清司

学校法人国際学院が創立50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。貴学院は、昭和38年に公認大宮国際料理学院を開設され、「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」という建学の精神のもと、人間性を育む人づくり教育に取り組んでこられました。

昭和58年には国際学院埼玉短期大学を開校し、幼児教育、栄養、調理という分野の「専門力」と社会で活躍するための「人間力」を持った人材の育成に尽力されており、埼玉を支える人材を数多く輩出しておられます。

また、平成10年に、県内の私立学校で唯一の総合学科を有する国際学院高等学校を開校し、生徒の個性を生かした特色ある教育を実施しておられます。その一環として平成22年には県内の高校で初めてユネスコスクールに加盟し、積極的な国際理解教育に取り組まれるなど、その実績は各方面から高く評価されています。

これもひとえに、50年という長きにわたり歴史を築いてこられた歴代の先生方や、関係する皆様の教育に対する熱意と不断の努力のたまものであると、深く敬意を表する次第です。

さらに、本年、国際学院中学校を開校し、新たな歴史の一歩を踏み出されるなど、今後の更なる飛躍が期待されるところです。

さて、日本は今、人口減少・超高齢社会の到来やグローバル化の進展など、大きな変革期を迎えています。こうした社会の大きな変化に対応して未来を切り拓いていくには、自ら考え行動できる創造力の豊かな人材を育成することが重要になると考えております。

そこで、本県の5か年計画では「時代に応え未来を拓く人材育成」を県政運営の重要な政策の一つとして位置付け、明日を担う人材の育成に全力で取り組んでいます。

「健康都市づくり」に貢献
「食育」の役割に期待

さいたま市長　清水　勇人

このたび学校法人国際学院が創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

また、貴学院におかれましては、大学コンソーシアムさいたまに加盟され、本市との連携のもと、地域の発展にご尽力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

昭和38年9月に女子教育の必要性と食生活の改善、向上を目指し、公認大宮国際料理学院を開設されて以来、ここにめでたく50周年の節目を迎えられました。

創立以来、「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を建学の精神とされながら、「礼をつくし、場を清め、時を守る」という教育方針を柱に教育研究活動を実践され、国際学院埼玉短期大学、国際学院高等学校、国際学院中学校を擁する学院としてご発展されましたことは、偏に大野理事長をはじめ、教職員の皆様方のたゆまぬご努力の賜であり、心より敬意を表する次第です。

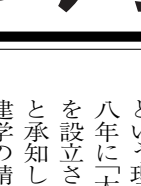
さて、長引く景気低迷、東日本大震災の発生、少子高齢化など社会を取り巻く環境は刻々と変化し、待機児童の解消、公共施設の老朽化、新エネルギーの創出等の新たな課題が顕在化する中、これらに迅速かつ適切に取り組む必要が生じています。政府の金融政策、財政政策により、株価の上昇など、日本経済に明るい兆しは見えるものの、これからの5年、10年は、さいたま市の将来にとって極めて重要な時期になると考えております。

こうした認識のもと、私は、さいたま市が、住んでいることが誇りに思えるようなまち、「しあわせ実感都市　選ばれる都市」となっていくことを目指して、5つの柱を基本としたまちづくりに取り組んでおります。その中の重要な柱の一つとして、誰もが健康で幸せに暮らせるまち「健康都市づくり」の実現を掲げ、市民一人ひとりが健やかで生き生きとした生活を営むことができるよう、食の面からの健康づくりなど様々な取組を推進しているところです。

「食」は、私たちが、生涯にわたって健康で、生きがいをもちながら質の高い生活を送るために欠かすことができないものであり、人間の心と体を育て、さらには、人を集め、賑わいを創出するものであります。こうした「食」の力を鑑みれば、「人づくり」の理念のもと、栄養士や調理師などを養成されている貴学院におかれましては、これからのまちづくりにおいて、これまでにも増して、大きな役割を担っていただけるものと、たいへん期待しているところです。

今後も、貴学院を始めとした、大学コンソーシアムさいたま加盟各校との連携を図りながらまちづくりに全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、更なるご協力をいただきますよう心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、学校法人国際学院の今後ますますのご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



世界で活躍する人材養成
各種講座開催で地域交流

伊奈町長　野川　和好

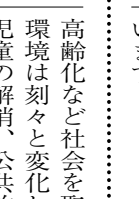
このたび、国際学院が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

昭和38年に国際学院が創立され、昭和63年4月、緑豊かな伊奈町に国際学院伊奈高等専修学校が開学されました。時代の趨勢に合わせ、10年後の平成10年には国際学院高等学校が改組して開学されました。そして平成22年に埼玉県内高等学校では初のユネスコスクールとして認定され、国際学院創立50周年を迎えたこの4月の中学校開校により、中高一貫教育となりました。これにより一層深みのある教育が実施されますことに大きな期待を寄せ、将来が明るく希望に満ちたものになることを期待しております。

大野理事長様をはじめ教職員の皆様には、5つの言葉「誠実」「研鑽」「慈愛」「信頼」「和睦」の建学の精神を柱に生徒一人ひとりの個性を伸ばし、世界に貢献できる健全有為な人材を育成するためご尽力いただいていることに、深く敬意を表する次第であります。そして学業のみならず、部活動におかれましても全国大会等で輝かしいご活躍をされており、町といたしましても大きな誇りとしているところであります。

伊奈町では町の将来像を「自然と調和した、ふれあい・安心安全・住みよいまち」としています。それを実現するため「心豊かな人と文化を育む」を掲げ、教育・文化に力を注いでおります。このような中、現在、町では町内の高等学校等の施設や教職員の方々と連携を図り、各種講座を開催し、住民への学習の場と機会の提供を通じて地域との交流を図っております。貴校におかれましても町の取組にご賛同をいただき、各種講座を開催していただいておりますが、毎回趣向を凝らし、専門性を活かした充実の内容の事業を展開していただき、参加する方々には大変好評を得ているところです。今後も地域と学校との交流や連携をより一層深めてまいりたいと考えておりますので、ご協力を賜りたいと存じます。

結びに、この50周年を節目としまして、これまでの伝統と実績をもとに、新たな目標に向かい、さらなる前進と飛躍をご期待申し上げますとともに、国際学院のますますのご発展をご祈念申し上げ、私からのお祝いの言葉といたします。



学力と人間力伸ばす教育
「専門力」で圧倒的就職率

日本私立学校振興・共済事業団
理事長　河田　悌一

学校法人国際学院の創立50周年、まことにおめでとうございます。

『論語』には「五十にして天命を知る」とありますが、1963（昭和38）年9月の創立以来50年。半世紀の光陰が経過し、記念すべき「知命」の年を迎えられました。衷心よりお祝い申し上げます。

理事長・学院長の大野誠先生（81歳）、副院長の敦子先生（80歳）は、開学以来ただ一筋、「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」という「建学の精神」のもとに、人間形成に重点をおいた〝人づくり教育〟に力を注いでこられました。

物的資源に乏しい我が国において、社会、経済、政治、文化の発展を支えているのは、まさしく人材すなわち人間力であります。

古人が「国家百年の計は〝人を植える〟教育にあり」と言うごとく、日本の未来を担う立派な若者を育成することは、重要な責務であります。

「国際学院埼玉短期大学」は、「幼児保育学科」、「健康栄養学科」の2学科を設置。保育と栄養の専門家の育成に努めてこられました。

（4面につづく）

祝　学院創立50周年

（3面からつづく）

両学科は、時代とともに、教育や食を取り巻く環境が大きく変化するなか、一貫して１００％近い圧倒的な就職率を誇っておられます。ここに、社会が求める人材へと成長した学生、その学生諸君のもつ豊かな人間力によって発揮される専門力が、見事に結実している証拠をみることができます。

創立50周年を迎えられた本年、１９９８（平成10）年開校の「国際学院高等学校」に加え、新たに「国際学院中学校」を開校され、〝中高一貫教育〟がスタートしました。その学校現場でおこなわれる〝ユネスコスクール〟での活動、〝持続発展教育（ＥＳＤ）〟など、世界と繋がり、世界と学ぶ独自の教育環境のもと、全人的な発展を遂げる重要な時期を６年間、２００００日という期間をかけて学力と人間力を伸ばしていく取り組みは、いつの時代も変わることのない「建学の精神」を具現化した一貫した姿勢であると考えます。これこそ、大野誠先生、博之先生をはじめとする貴学院の教職員の方々の、教育にたいする情熱と努力の賜物である、と心から敬意を表します。

現在、貴学院の副理事長、学長、校長を三位一体で担っておられる大野博之先生には、私ども私学事業団の「専門家人材バンク」の有力メンバーとして、専門的な知識と経験を生かし、私学経営の相談・改善・支援のために多大なる尽力を賜っております。この場を借りて、感謝の意を捧げ、厚く御礼を申し上げます。

私ども私学事業団は、幼稚園から大学院まで日本の教育を支える私立学校のため、また私学振興の先導的な拠点として、さらなる努力をしてまいる所存であります。

創立50周年を迎え、新たな歴史を拓くスタートラインに立った国際学院。貴学院が、その個性と特色を最大限に生かし、地域社会と日本、さらに世界に貢献する有為な人材育成の拠点として、今後より一層大きく飛躍されますことを、心より期待しております。

学校法人国際学院のさらなるご発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

一貫して人間教育に力

埼玉県教育委員会教育長　**関根　郁夫**

学校法人国際学院が、創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴学院は、昭和38年の大宮国際料理学院の開校以来、「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」を建学の精神として、一貫して人間教育に力を注いでこられました。昭和58年に開学された国際学院埼玉短期大学は今年開学30周年を迎えられましたが、これまで送り出された幾多の有為な人材は、地元埼玉の幼児教育や栄養士、調理師界はもとより、各界・各方面において活躍されております。また、平成10年に開校された国際学院高等学校は今年開校15周年を迎えられ、ユネスコスクールへの加盟など国際理解教育を積極的に進められるとともに、陸上部を始めとした部活動がインターハイや国体等で入賞を果たすなど、着実に成果を上げてこられました。さらに、今年4月に国際学院中学校が開校されたことで、国際学院高等学校との6年間を通した一貫教育によるグローバルリーダー育成に向けた取組が一層期待されるところです。

現在、我が国の社会状況は、グローバル化、高度情報化、少子高齢化など、めまぐるしく変化しております。また、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代であるといわれております。

こうした中、社会がどのように変化しようとも、自らの力で人生を切り拓き、幸福な生涯を実現するとともに、社会の中で役割を果たすことのできる人材の育成が求められています。

貴学院が創立以来力を注いでこられた「人づくり教育」、そして独自の教育プログラムにより育成されている豊かな人間性と確かな専門性を備えた人材は、まさにこれからの先行き不透明な社会に求められる人材であるといえます。

県では、「生きる力と絆の埼玉教育」という基本理念のもと、平成21年度から取り組んでまいりました埼玉県教育振興基本計画「生きる力と絆の埼玉教育プラン」が最終年度を迎えました。

現在、その検証を進めるとともに平成26年度からの5年間を計画期間とする第2期埼玉県教育振興基本計画の検討を進めております。引き続き、埼玉教育の充実・発展に取り組んでまいります。

結びに、貴学院がこれからも「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の建学の精神、「人づくり」の教育理念のもと、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

地域で「食育」指導推進

さいたま市教育委員会教育長　**稲葉　康久**

学校法人国際学院が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴学院は、昭和38年9月に公認大宮国際料理学院として創立されて以来、建学の精神「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」のもと、質の高い教育内容で、豊かな人間力、確かな専門力を身に付けた前途有為な人材を数多く社会に輩出してこられました。卒業生の中には、学校栄養職員あるいは栄養教諭としてさいたま市立の小・中学校で活躍されている方も数多くおり、学校における食育の推進に力を発揮していただいております。半世紀にわたり、学校の発展に尽くされました理事長はじめ、教職員や保護者の皆様方のご努力に対しまして、深く敬意を表します。

さて、近年、子どもたちを取り巻く社会環境は大きな変化を見せており、朝食欠食や栄養の偏り、食の海外への依存や伝統的な食文化継承の危機など食生活にも影響を及ぼしております。

このような問題を解決するキーワードが食育であり、子どもたちが健全な食生活を実践し、生涯にわたり健康で豊かな生活を送るためには、食に関する知識や情報についての正しい理解や望ましい食習慣の定着を図ることが重要であると認識しております。このことを踏まえ、さいたま市教育委員会では、学校給食を「生きた教材」として活用し食育の視点を生かした授業を展開するとともに、地場産物を活用した学校給食の充実、さらに地元シェフによる学校給食や学校や近隣の農地を活用した学校教育ファームの実施など計画的、継続的に学校教育活動全体を通じて食育の推進に取り組んでいるところでございます。

本年6月には、さらなる食育の推進を目的に、国際学院埼玉短期大学と「教育コラボレーション協定」を締結し、実践的な研究や活動を行うことにいたしました。この協定により、本市の教職員の資質・能力の向上、栄養教諭養成など、学校における食育が大きく前進するものと確信しております。今後もより一層の連携強化に努めてまいりたいと考えております。

結びに、貴学院が今日まで築かれた50年のあゆみをかけがえのない財産として、今後とも、輝かしい未来のグローバルリーダーを育てる教育と研究の殿堂となり、ますます躍進されますことを祈念し、合わせて大野誠理事長様をはじめ教職員の皆様並びに関係各位の御健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

地域の教育充実支援

伊奈町教育委員会教育長　**坂井　貞雄**

学校法人国際学院が、この度創立50周年を迎えられましたこと、心からお祝申し上げます。

50年前というと、昭和38年でありますが、翌年には東京オリンピックが開催され、首都高速道路の開通や東海道新幹線が開業した時代と重なり、インフラ整備が急速に進み、高度成長社会の日本のスタートになった経緯があります。こうした、経済高度成長期を経た子供たちが、国際学院の校風にあこがれて集い、勉学に勤しんできた歴史を感じさせます。

日本の社会が急速な近代化を進めていく中で、保育と栄養の専門家の育成を目指し、一貫して「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の建学の精神を重んじ、独自の文化と伝統を築き上げ、そこに息づく魂は、校訓として受け継がれ、現在の学生・生徒たちの心の中にも脈々と流れているものと捉えています。

国際学院を巣立った学生・生徒たちは、母校で培った精神をそれぞれの人生の糧として、いつまでも大切に持ち続けていくものと思います。

昭和63年には国際学院伊奈高等専修学校を創立し、平成15年に高等学校、そして、今年度の平成25年には、伊奈町内初の私立中学校を開校し、中高一貫校の国際学院中学校・高等学校として、ユネスコスクールにも指定されており、敬意を表します。

国際学院の特質を生かし、町立の小・中学校との連携と共存のもと、互いに交流を図りながら、食育をはじめとする伊奈の教育の充実のために御支援・御協力をいただいていることに感謝申し上げます。

平成23年3月11日に発生した福島原発事故を伴った東日本大震災は、今なお、被災地においては厳しい状況が続いています。甚大な被害を受けた地域や学校関係者のこれまでの労苦は、想像に余りありますが、人と人とのつながりや絆の大切さが再認識されています。

学校教育に携わっている私たちの使命は、大震災の教訓が風化しないよう、支援の取組の一環として、子供たちに善意と協力の精神を養い、時代の変化に対応できる青年たちの育成を図ることでもあります。

その中にあって、国際学院の担う役割は、多大であり、グローバル化が進展し、知識基盤社会と言われる社会に通用する有為な形成者を地域に、世に送り続けていかれることを期待しています。

学校法人国際学院が創立50周年を１つの節目として、これまでの歩みによって得られた確固たる信念と自信に裏付けられた御功績を踏まえ、今後も伊奈の地において、より一層更なる飛躍を遂げられますよう祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

教育連携で相互理解深める

シドニー大学副学部長（国際部）
Gareth Denyer

シドニー大学を代表し、学校法人国際学院が創立50周年を迎えられることをお慶び申し上げます。

貴学院との教育提携を通して、私たちは貴学院が栄養および教育分野、特に栄養と文化の分野へ貢献されてきたことを目の当たりにしてきました。貴学院の教育内容を支える調和と友情の価値観とは、同様にすべての卒業生と教職員に大いに役立つ、根本的な価値観であると考えております。

貴学院にお慶びを申し上げるとともに、将来の調和的・生産的な仕事ができるよう、期待しております。

敬具

Gareth Denyer
副学部長（国際部）

Gareth Denyer
Associate Dean (International Affairs) FACULTY OF SCIENCE
11 October 2013

On behalf of the University of Sydney, I wish to convey my congratulations to the Kokusai Gakuin College Foundation on the occasion of their 50th anniversary.
Over the course of our association with the Foundation we have seen the contribution that your staff and graduates make to the field of nutrition and education, in particular nutrition and culture.
The values of harmony and friendship that underpin the Foundation's programme are likewise fundamental values that stand all graduates and staff in good stead.
We congratulate the College Foundation and look forward to harmonious and productive work with you in the future.

Yours sincerely
Gareth Denyer
Associate Dean (International Affairs)

祝　学院創立50周年

教育連携で子どもを支援

マッコーリー大学
副理事長・学長
Professor S. Bruce Dowton

学校法人国際学院が創立50周年を迎えられることをお慶び申し上げます。マッコーリー大学は、過去50年間の貴学院の教育に対する理念や関わりについて、学院創設者ならびに指導者の方々にお祝いの言葉を述べさせていただくとともに、私たちにこの大きな偉業をお祝いすることができる機会を与えていただき、感謝申し上げます。

マッコーリー大学は貴学院との長期にわたる友好関係を尊重しております。私たちは、本学の幼児教育学部と貴学の幼児保育学科が24年間にわたって培ってきたつながりを通して、貴学院の教育活動に連携することができることを誇りに感じております。

貴学院と本学は共に社会への奉仕と国際的な関わりに強く関わってきました。教職員と学生の間で共有された知識と経験は私たち2つの教育機関、そして2か国の間での理解を促進しています。私たち2か国は、共に子どもたちや家族、地域社会の生活を前進させるという点において、幼児教育の重要性を認識しています。現在の教育提携を通して、教育と研究を通し子どもたちと家族を支援することによって、私たち2か国のよりよい未来を構築して参りましょう。

私たちはこれからも貴学院の教職員と学生がマッコーリー大学に訪れる機会がさらに増えることを楽しみにしております。特に、マッコーリー大学創立50周年を迎える来年２０１４年に貴学を招待し、共にお祝いできることを楽しみにしております。

私たちはまだ創立間もない、若い教育機関です。私たちの友好関係、そしてこのグローバル社会への奉仕の中で、共に協力し前進していきましょう。

Professor S. Bruce Dowton
副理事長・学長
２０１３年10月28日

有為な人材を多く輩出

学校法人国際学院顧問
松永　光

学校法人国際学院の創立50周年を心からお慶び申し上げます。

創立以来、学院の発展と学生・生徒の教育に全力を傾注されてこられた理事長・学院長の大野誠先生並びに副学院長の大野敦子先生、副理事長で短期大学長・中学校高等学校長の大野博之先生をはじめ学院関係各位のご努力とご活躍に深い敬意を表する次第であります。

思い起こせば昭和38年の年頭であったと記憶しておりますが、大野誠先生が亡父松永東のもとに学校の創立についてご相談にみえられたのがはじまりであったと存じます。

父は、大野先生の教育に対する情熱、確固たる信念に感銘をおぼえ、故大野伴睦先生とも相談して、国際的な飛躍を願い、学校の名称を「国際」と命名し、請われるままに喜んで顧問に就任したと聞いております。

その後、大野誠先生が人生訓である「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」を建学の精神として創立された「大宮国際料理学院」は、発展の途をたどり、調理、栄養、保育の専門職業人の養成教育と中等・高等教育を実践し、今日、「国際学院埼玉短期大学」「国際学院中学校高等学校」としてそれぞれの特色を活かした教育に邁進されております。

戦後の日本の教育は、昭和22年に制定された教育基本法のもとで、国民の教育水準を向上させ、豊かな経済社会や安心な生活を実現する原動力となるなど大きな成果を上げてきました。

しかしながら、近年の情報化や国際化、少子高齢化などにより、日本の教育を巡る状況は大きく変化して参りました。このため平成18年には、改正教育基本法が公布され、その前文にあるように、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を学び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進することになりました。

このことからも、半世紀におよぶ国際学院の「人づくり」教育が、今、まさに、社会から求められており、多くの卒業生が社会の各分野で立派な活躍をされ、年を追うごとにその評価は高まっております。今後とも国際学院の皆様のさらなる情熱と信念をもって国際学院の発展と有為な人材を社会に多く輩出されますことをご期待いたす次第です。

私も微力ながら顧問として力を尽くして行きたいと存じております。

結びにあたり、国際学院の益々のご隆昌と皆様のご多幸をお祈りし、お祝いの言葉といたします。

（元大蔵・文部大臣）

国際学院生の熱意に感動

バンクーバーアイランド大学（州立）
学長・副理事長
Dr. Ralph Nilson

学校法人国際学院が創立50周年を迎えられることをお慶び申し上げます。これまで貴学はユネスコスクールの理念実現のためのさまざまな教育活動を通じて、国際理解の推進および未来のグローバルリーダーの育成において重要な役割を果たしてきました。

２００６年以来、バンクーバーアイランド大学と貴学院は、強固で相互に利益をもたらす関係を築いてきました。数年間にわたり、国際学院埼玉短期大学および高等学校より、多くの学生・生徒が本学を訪れ、英語学習や文化学習プログラムに参加しております。私たちは彼らのような精力的で魅力的な若者が持つ学習への熱意に深く感動しております。これからも、より多くの学生・生徒を貴学から受け入れることを、心よりお待ちしております。

From Dr. Ralph Nilson, President and Vice-Chancellor, Vancouver Island University, Canada

Congratulations to the Kokusai Gakuin Educational Foundation on its 50th Anniversary! Through its various activities and affiliation with the UNESCO Associated Schools Project, the Foundation plays a key role in the promotion of global understanding and the development of future world leaders. Since 2006, Vancouver Island University has enjoyed a strong and mutually beneficial relationship with the Kokusai Gakuin Educational Foundation. Over the years, many groups of students from the Junior College and the High School have come to Vancouver Island University for short-term English language and culture programs. We have appreciated the enthusiasm for learning of these energetic and engaging young people, and we look forward to welcoming many more Kokusai students in the years to come!

親密な交流さらに発展を

アーチビショップカーニー中等学校
学生サービス課長、副校長代理
Mr・ジェロム・フランシス

学校法人国際学院が創立50周年を迎えられることをお慶び申し上げます。我々アーチビショップカーニー中等学校は、この貴重な機会を祝うことができることを光栄に、また誇りに感じております。本校と貴学院は、相互への尊敬、称賛、そして教育へのゆるぎない信念に基づいた、親密な関係を築いてきました。我々は生徒が人生の中でその力を十分に発揮し、彼らの才能と能力を地域社会と世界への貢献のために用いるように指導しております。

これまで我々は豊かな文化交流を重ねてまいりました。今後、この交流がさらに発展することを期待しております。貴学院およびその関係者の皆様に、心からのお慶びを申し上げます。

Message from Mr. Jerome Francis,
Director of Student Services, and Acting Vice-Principal
Archbishop Carney Regional Secondary School
Port Coquitlam, British Columbia, Canada

Congratulations to the Kokusai Gakuin Educational Foundation on its 50th Anniversary! The community of Archbishop Carney Regional Secondary School is honoured and proud to recognize this most prestigious and rare occasion. Together, our organizations have fostered a close relationship, founded on mutual respect, admiration and an unfailing dedication to education. We share a primary commitment to our students, challenging them to excel in all virtuous aspects of life and to encourage them to use their gifts and talents in service of the community and the world. We have enjoyed many wonderful and enriching cultural visits with their community, and look forward to future connections with them. Our sincere congratulations to the Foundation and its members, on this momentous occasion!

A Greeting from Macquarie University

Dr Makoto Ono, Chairman of the Kokusai Gakuin Foundation
Mr Hiroyuki Ono, President of the Kokusai Gakuin Foundation

On the occasion of the 50th Anniversary of Kokusai Gakuin Foundation

Congratulations to the Kokusai Gakuin Foundation on its 50th Anniversary. Macquarie University congratulates the founders and the leaders of the Foundation on their vision and commitment to education over the past 50 years and thanks you for your generous invitation to join with you in celebrating this great achievement.

Macquarie University values our long friendship with Kokusai Gakuin Foundation. We are proud to be associated with the work of the Foundation through the links between our Institute of Early Childhood Education and your Department of Early Child Care and Education that have been in place for 24 years.

Kokusai Gakuin Foundation and Macquarie University both share a strong commitment to service and international engagement. The knowledge and experience shared between our staff and students helps build understanding between our two institutions and our two nations. Both our countries recognise the importance of early childhood education and care in advancing the life of children, families and communities. Through our ongoing partnership, let us help build a better future for our countries by supporting children and families through education and research.

We look forward to many more opportunities to welcome staff and students of Kokusai Gakuin Foundation to Macquarie University over the coming years. We particularly look forward to your visit in2014 when we invite you to join with us in celebrating the 50th Anniversary of Macquarie University.

We are young institutions with many years before us. Let us move forward together in friendship and service to our global community.

Professor S. Bruce Dowton
Vice-Chancellor and President

28 October 2013

新たな時代へ向けて飛躍を！

創立以来揺るがぬ「人づくり教育」の信念

「尊敬される人」育成目指す

学校法人国際学院
理事長・学院長　大野　誠

国際学院創立50周年という半世紀に亘る歴史は、決して順風満帆の歩みではなく、恩師、先輩、友人、関係各界の方々、地域の方々のお導きのもと、今日に至り、この歴史の中で本学の「人づくり教育」の伝統が醸成されて参りました。

短期大学は、一般財団法人短期大学基準協会による第Ⅱ期の第三者評価の結果、平成24年度「適格」認定を受け、高等学校は、平成22年度に高等学校としては埼玉県内初のユネスコスクールに認定され、①地球規模の問題に対する国連システムの理解、②人権、民主主義の理解と促進、③異文化理解、④環境教育の4つをテーマとした持続発展教育（Education for Sustainable Development）に取り組んでいます。

創立以来、「人づくり教育」の大切さを片時も忘れることなく、建学の精神である「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」を柱に頑なまでにこの教育を実践し、また、「礼をつくし、場を清め、時を守る」の教育方針を礎として凡事徹底を貫き、揺るがぬ信念として参りました。少子高齢化の中、社会は今、大きく変化しています。

これからも、本学で学んだ人が社会から高い評価を得ることを目的として、短期大学においては、専門職業人としての専門知識や技術に加え、豊かな人間性を備えたそれぞれの分野で「尊敬される人」の育成を目指します。

中学校高等学校においては、人格形成と学力保証を基本に、社会において「尊敬される人」の育成を目指した人づくりに邁進し、優れた温味のある卒業生を世に送り出せる学院づくりに力を注いで行く所存です。

「人づくり教育」に専心

国際学院埼玉短期大学・国際学院中学校高等学校
学長・校長　大野　博之

国際学院創立50周年の記念すべき日を在学生・在校生とともに迎え、教職員一同感謝の気持ちでいっぱいでございます。国際学院埼玉短期大学は開学30周年、国際学院高等学校は開校15周年を数え、これまで学院全体で1万8000有余の卒業生を送りだしてまいりました。これも偏に本学院の教育に対する皆様方のご理解ご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

我が国は、少子高齢化、生産年齢人口減少による経済規模の縮小、環境・エネルギー問題、そして東日本大震災からの復興と多くの課題をかかえています。これらの課題解決には、知恵を出し合い創意工夫し協働する社会の創造や安心して健康に生活できる福祉の確立が不可欠です。その礎は教育にあるといっても過言ではありません。また、OECD加盟諸国の大学進学率平均62％に対し、日本は51％と若者全員が高等教育を受ける機会を得ているわけではありません。すべての人が等しく高等教育を享受し、一生涯学び続ける社会を築くことは私たちの豊かな生活に、ひいては次代を担う子ども達の幸せに必須といえるでしょう。

本学院は、創立50周年を契機に次の半世紀に向け、自ら学び他者の幸福を追求できる人材養成のため、中期ビジョンを策定、「リベラルアーツ」「国際理解」「ICT」の3分野の教育機能強化を教職員一丸となって推し進めてまいります。

世界中の人々と交流し、国際化・高度情報化社会の中で広く活躍できる真の教養を身に付けた「人づくり教育」に専心いたしますので、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

大野誠先生の略歴

学校法人国際学院理事長・学院長
国際学院埼玉短期大学名誉学長
昭和7年栃木県に生まれる。日本大学農獣医学部獣医学科卒業。
埼玉県熊谷保健所勤務などを経て、昭和38年に公認大宮国際料理学院を創立。
昭和46年に学校法人国際学院設立認可。昭和58年、日本大学医学部より医学博士号取得。国際学院埼玉短期大学の初代学長（平成20年に名誉学長）、国際学院高等学校の初代校長。平成15年、社会福祉法人誠心会の理事長（あおぞら保育園、あおぞら西保育園、ウィンクルム保育園）。

■外部団体等で私学振興に貢献

埼玉県社会福祉審議会委員、埼玉県私立学校審議会委員、さいたま市民大学運営委員会副委員長などで埼玉県政及び市政への貢献をはじめとして、社団法人全国調理師養成施設協会会長や日本私立短期大学協会副会長、関東私立短期大学協会会長、埼玉県私立短期大学協会会長、全私学連合私学予算委員会委員の要職を歴任。

■賞罰

埼玉県知事表彰、専修学校教育功労者表彰（文部大臣表彰）、厚生大臣表彰、藍綬褒章、フランスの文部省からENSEIGNEMENT TECHNIQUE（教育功労賞）、旭日中綬章受章（内閣総理大臣）、短期大学教育功労者表彰受賞（文部科学大臣）

■著書

『敦照のこころ』『親の仕事は子の躾』『子供に大切なことは、「食卓」で学ばせたい』『夢は限りなく』

私学団体の要職を歴任…旭日中綬章受章など数々の受賞歴…『敦照のこころ』など著書多数

学校法人国際学院創立50周年のあゆみ

昭和38年（1963年）	9月	国際学院創立　公認大宮国際料理学院開校
41年（1966年）	4月	公認富士服装学院（和裁科・洋裁科・編物科）開校（昭和51年3月閉校）
43年（1968年）	10月	国際クッキングスクールを大宮駅前大一ビルに開校
44年（1969年）	5月	大宮国際料理学院を現在地（さいたま市大宮区吉敷町）に移転、校名を国際栄養学院に改称
45年（1970年）	4月	国際栄養学院に調理師養成課程を設置
46年（1971年）	12月	学校法人国際学院設立認可
48年（1973年）	4月	大宮保育専門学校開校（幼稚園教員養成科設置）（昭和59年3月閉校）
48年（1973年）	11月	国際学院創立10周年記念式典挙行
49年（1974年）	4月	大宮保育専門学校に保母養成科（夜間部）設置
50年（1975年）	4月	大宮保育専門学校に幼稚園教員・保母養成科（昼間部）設置
51年（1976年）	3月	国際栄養学院を国際調理師専門学校に改称（平成23年3月閉校）
52年（1977年）	4月	国際栄養士専門学校開校（昭和59年3月閉校）
53年（1978年）	12月	国際学院創立15周年記念式典挙行
54年（1979年）	3月	大宮総合校舎落成
58年（1983年）	3月	国際調理師専門学校新校舎落成移転（さいたま市中央区上落合）
58年（1983年）	4月	国際学院埼玉短期大学（幼児教育科・食物栄養科）開学
58年（1983年）	9月	国際学院創立20周年記念式典挙行
60年（1985年）	3月	岩槻総合グランド管理棟落成
60年（1985年）	4月	大学会館落成
61年（1986年）	3月	短期大学2号館（図書館）落成
63年（1988年）	4月	国際学院伊奈高等専修学校（食品流通工学科・国際情報経営科・社会体育科）開校（平成11年3月閉校）
63年（1988年）	7月	国際学院創立25周年・国際学院伊奈高等専修学校開校記念式典挙行
平成元年（1989年）	8月	国際学院伊奈高等専修学校講堂兼体育館（MAKOTO HALL）落成
2年（1990年）	4月	国際調理師専門学校の調理師科を調理師高度技術学科（2年制）と調理師専攻学科（1年制）に改める。
2年（1990年）	4月	国際学院伊奈高等専修学校食品流通工学科を食品流通工学科調理師課程と食品流通工学科調理ビジネス課程に改める。
2年（1990年）	4月	国際学院伊奈高等専修学校部室及び駐輪場落成
3年（1991年）	3月	国際調理師専門学校校舎落成並びに移転（さいたま市大宮区吉敷町）
4年（1992年）	4月	国際学院伊奈高等専修学校に国際英語科を設置
5年（1993年）	9月	国際学院創立30周年記念式典挙行
5年（1993年）	9月	日本文化研修館（敦照殿）落成
7年（1995年）	4月	国際学院埼玉短期大学に専攻科食物栄養専攻設置（学位授与機構認定専攻科）修業年限2年
8年（1996年）	4月	国際学院埼玉短期大学に専攻科幼児教育専攻設置（学位授与機構認定専攻科）修業年限2年
10年（1998年）	3月	日本文化研修館（敦照殿）に「五葉之門」移設（学院創立35周年記念）
10年（1998年）	4月	国際学院高等学校（全日制課程、総合学科）開校
11年（1999年）	4月	国際学院高等学校と国際調理師専門学校がフランス国立グルノーブル調理技術専門ホテル学校と姉妹校提携

国際学院創立50周年を迎えて

「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の建学の精神貫く

国際的視野で人づくり

国際学院
後援会会長　塗師祥一郎

国際学院創立50周年おめでとうございます。

五つの建学の精神を踏まえ、人間の生る源、保育・幼児教育、そして食の文化と欠かすことのできない大切な役割を果す人材の育成に大野誠理事長を中心に50年の歴史を歩み、大きな成果をあげられました。

現在学園は、大宮キャンパス、伊奈キャンパスの特性を活かし豊かな授業の成果をあげています。

国際的視野に立って行動できる人づくりにむけ英語教育を重視した中学校を本年より開校。ユネスコスクールとして充実を図る高校。自立創造力のある人間の力を育む短期大学。

これから激しく変るであろう社会に対応できる人材を育成されるこの学院に大きな期待をしております。

受け継がれる「人間教育」

国際学院埼玉短期大学
同窓会会長　福森　啓

学校法人国際学院創立五十周年に際し、同窓会を代表してお祝い申し上げます。

この五十年の間、多方面で多くの卒業生が輩出されてきました。短期大学同窓会では、人間形成における重要な幼児に対する指導者、また人間の生命に関わる食を取り巻く調理・栄養・衛生等の実践・指導者が社会で活躍しております。

卒業生の基本は人間教育に発しています。異なる分野でありながら、多くの者が教育者としての立場で仕事をしています。その養成には、まず人間教育が大切であるという本学の精神が、卒業生に受け継がれています。

最後に、学校法人国際学院のさらなる発展を祈念するとともに、多くの後輩が社会で活躍していただくことを願ってやみません。

絆強かった1期生

国際学院高等学校
同窓会会長　小国　諭

国際学院創立50周年おめでとうございます。

私が学んだ学び舎は現在伊奈町にある国際学院高等学校の前身である国際学院伊奈高等専修学校です。思い返せば、私が入学したときは、現在の校舎が真新しい新校舎であり、開校1年目で歴史も伝統もなく、土台を築いていかなければならないという使命感を、私をはじめ第1期生全員の生徒が持っていました。そのせいか、仲間同士の団結力のような絆がかなり強かったように思います。

また、当時学校で学んだ数々の知識や教養、規律行動、5分前行動などは、現在の私の生活にも今なお生き続け、多大な影響を与えていると言っても過言ではありません。だからこそ、私は、国際学院の卒業生であることに誇りを持っています。

これから先、国際学院が新たな歴史を刻むとともに発展し、社会で活躍できる数々の人材を送り出し続け、更なる栄光と繁栄に繋がることを心よりお祈り申し上げます。

社会が求める人材育成

国際学院中学校高等学校
保護者会会長　後藤みゆき

国際学院創立50周年、まことにおめでとうございます。

五つの建学の精神のもと、「人づくり」に力を注いでいただき、豊かな人間性を備えた人材を数多く輩出し続けていることは、先生方のご努力の賜物と思います。

社会で必要なのは、確かな専門力、これだけではなく、笑顔であいさつができる、協調性、相手の立場で考えた行動ができる、思いやり、このようなものを兼ね備えた人材です。

これからも「人づくり教育」のもと、社会が求める人材を育成していただくことを望みます。私ども、中学校高等学校保護者会も、国際学院のますますの発展のため、精一杯努力してまいります。

世代超え「五峯祭」で交流

国際学院短期大学同窓会
つくし会会長　中村　治美

学院創立五十周年おめでとうございます。歳月は流れても門から見える懐かしい風景と学舎は、いつも温かく迎えてくれます。

昨年より新たな活動の一つとして、同窓会と学友会が一緒に『五峯祭』でイベントを開催しております。世代をこえた卒業生たちと在校生による交流の場として、成果を上げつつ、更にはお子様連れで来場した方々の為の触れ合いの場としても、学内外から喜ばしい声や評価をいただくことができました。

こうしていつの時代もこの学院にしか出来ない事やこの学院だから出来る事に着目し、日々進化しているのが国際学院です。

学院の素晴らしき未来と、同窓生達の絆が永遠に続きますように。

地域の期待に応える卒業生

国際学院埼玉短期大学同窓会
あすなろ会会長　大野　智子

この度、学校法人国際学院が、創立50周年という記念すべき年を迎えられますことを、皆様方と共に心からお祝いを申し上げます。

貴法人は、いち早く「人づくり」を認識され「誠実」「慈愛」「信頼」「研鑽」「和睦」の5つの建学の精神に則り50年という長きにわたり、地域の期待に応える学生の育成に努め、多くの卒業生を送り出されて来られました。私もその一人ですが、これもひとえに、理事長先生をはじめとする、役員の方々や教職員の皆様の教育に対する情熱と不断の努力の賜物と、深く敬意を表します。

どうかこれからも、輝かしい良き伝統を受け継がれながら、さらなる教育の推進力として、将来にわたり益々のご発展をされますことを心から祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

生徒に浸透した人作り教育

国際学院埼玉短期大学同窓会
けやき会会長　新野　忠史

国際学院創立50周年おめでとうございます。調理師第一期卒業生として誇りに思い心からお祝いを申し上げます。学院長の人作りの教育、思いやりの心、感謝の気持、そして挨拶の大切さを教えてもらいました。

特に実感した事は学院に訪ねた時に、生徒さんから「おはようございます」「こんにちは」と私より先に明るい声で挨拶された時「教育が出来ているなぁ」と思いました。気分が悪い時、機嫌をそこねている時、不機嫌なことに出合った時でも、明るい挨拶の応答で、すっかり気分が一新される効果があると思います。生徒に浸透した挨拶、すばらしい学院だと思いました。

50年の歴史を持った学院を大切にしつつ我が母校の益々の発展を信じつつ皆様のご健勝を心から祈念申し上げ創立50周年のお祝いといたします。

13年（2001年）	7月	伊奈キャンパス総合整備（建学の精神碑、正門、総合グランド、ロータリー）
14年（2002年）	4月	国際学院高等学校に通信制課程総合学科（広域制）設置
15年（2003年）	5月	大宮キャンパス3号館（RAPPORT）落成
15年（2003年）	6月	国際学院埼玉短期大学がオーストラリアの国立シドニー大学、州立マッコーリー大学と教育提携
15年（2003年）	9月	伊奈キャンパス連絡橋竣工（本館とMAKOTO HALL）
15年（2003年）	10月	国際学院創立40周年記念式典挙行
15年（2003年）	10月	国際調理師専門学校調理師専攻学科二部課程設置
16年（2004年）	3月	国際学院高等学校の「問題発見・解決能力を育成する課題研究」が文部科学省の教育改革推進モデル事業に指定
16年（2004年）	4月	国際学院埼玉短期大学学科名等を変更（幼児教育科を幼児保育学科、食物栄養科を健康栄養学科、専攻科幼児教育専攻を専攻科幼児保育専攻、専攻科食物栄養専攻を専攻科健康栄養専攻）
16年（2004年）	7月	国際学院埼玉短期大学の「短期大学における自立創造力育成プログラム」（五峯祭）が特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に選定
17年（2005年）	10月	国際学院高等学校がカナダのアーチビショップカーニー中等学校と姉妹校提携
18年（2006年）	3月	国際学院埼玉短期大学が財団法人短期大学基準協会による第三者評価で適格認定を受ける。
18年（2006年）	10月	国際学院埼玉短期大学がカナダの州立マラスピナ大学（現、バンクーバーアイランド大学）と姉妹校提携
18年（2006年）	10月	国際学院高等学校の「国際化時代に対応できる態度・能力の育成を図る海外研究」が文部科学省の教育改革推進モデル事業に指定
19年（2007年）	8月	国際学院埼玉短期大学の「卒業研究による短期大学専門教養教育の展開」が特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に選定
20年（2008年）	9月	国際学院埼玉短期大学の「テュートリアル教育による教養教育の充実」が質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）に選定
20年（2008年）	10月	国際学院高等学校の「国際化に対応した国際理解教育の推進を図るための語学研修」が文部科学省の教育改革推進モデル事業に指定
20年（2008年）	12月	国際学院創立45周年記念式典挙行
21年（2009年）	8月	国際学院埼玉短期大学の「総合理解力の向上を図る就職支援プログラム」が学生支援推進プログラムに選定
22年（2010年）	4月	国際学院埼玉短期大学健康栄養学科内に専攻設置（栄養士専攻・調理師専攻）
22年（2010年）	4月	国際学院埼玉短期大学に調理師別科設置（修業年限1年）
22年（2010年）	4月	国際学院埼玉短期大学専攻科に高度調理師専攻設置（修業年限1年）
22年（2010年）	4月	国際学院高等学校大宮学習センター開設
22年（2010年）	7月	国際学院高等学校がユネスコスクールに認定・加盟
23年（2011年）	4月	国際学院埼玉短期大学専攻科にキャリア開発専攻設置（修業年限1年）
25年（2013年）	3月	国際学院埼玉短期大学が一般財団法人短期大学基準協会による第Ⅱ期目の第三者評価で適格認定を受ける。
25年（2013年）	4月	国際学院中学校開校
25年（2013年）	12月	国際学院創立50周年

祝　学院創立50周年

論説

「知の伝承」への挑戦

学院創立50周年を迎える本年、「式年遷宮」が執り行われた。伊勢神宮が20年に一度、内宮本殿を真新しいものにすっかり建て替え、ご祭神が引っ越す儀式である。持統天皇が即位した６９０年に始まったとされ、本年で62回目を迎えた。戦国時代の一時を除き、ほぼ１３００年間、連続してきた格例である。木曾にある皇室の御料林から木を運び伊勢で製材する一方で、以前の本殿はすっかり分解され、その木材は他の神社の資材として全国各地へ下げ渡されるなど、多くの時間（８年前から始まる）と経費（今回は約５７０億円）を要する。これには、古代日本人の〝文化伝承の崇高な精神〟が秘められている。伊勢神宮の独自な建築様式を一分の違いなく後世に伝えるためには、当然その技と心を受け継ぐ人を継続的に育てなければならない。西洋の建築の基本的発想法は、石や岩を多用して建造物を後世に残そうというものだが、それ故かピラミッドやパルテノン神殿は、いずれもその技術に多くの謎が秘められており、現代技術での完全なる再生は不可能だという。古代日本人は、文化を単に残すといった手法ではなく、〝人から人へ〟と伝えてゆく知恵や方法を重視する、まさに〝温故知新〟の精神を尊んだ。伊勢神宮は他にも古式を伝承しており、神に備える供物も自給自足で賄っている。米や野菜の他、塩や海産物まで自前で生産し収穫している。稲作、漁労文化から、暮らしの知恵、建築工匠、祭儀の伝統に亘る文化が現代まで脈々と受け継がれ、生きていることに、畏敬の念を覚える。

他方、少子高齢化の進展と就業構造や生活様式の変化に伴って、文化や知見を継承する担い手の減少とともに、次世代への「知の継承」が、分野を問わず大きな課題となっている。内閣府が発表した平成24年版高齢社会白書によれば、今後50年間で生産年齢人口（15～64歳の全人口比率）が半減するという試算もあり、また15歳～29歳迄の若手と30歳～65歳迄の中高年の労働者比率が、２０１０年で１対10という実態がある。つまり、熟練者10人に対し、知見やノウハウを受け継ぐべき若手が１人しか存在しないことになり、この傾向は今後増々進展することが確実である。加えて、知の継承には、継承を阻害する幾つかの要因が存在し、それに対する複合的な取り組みが急務とされる。一般に、知の継承は、経験を積めば継承出来る（誰でも教えれば習得できる）、或いは、マニュアル等の仕組みを作れば、後はうまくいくといった幾つかの誤解が存在する。実際、教導する側が懸命に伝えようとしても、修得する側に類似の経験がないと内容を理解するのに時間を要したり、正しく伝わったかどうかの判断が難しい。また、継承に必要な情報は個人毎に異なることから、マニュアルを作っただけでは上手く伝わらない。真に継承を成功させるためには、知の継承を単なる知見やノウハウの伝授としてではなく、人材育成として捉える必要がある。

人材育成の要諦は古今東西、数多の教えがあるが、何れも「人」の心の在り方や行為に纏わることが大半である。人は、歴史や古典、人間の生き方などを学び、真実を見抜く見識（目と心）を養うことにより、筋の通った素晴らしい人生を歩むことが出来る。我々は歴史を振り返ることによって、古の人が、どのように悩み苦しみ、そして立ち向かっていったのかを学ぶ事ができるし、良心に基づいた反省を伴うことによって人格が磨かれる。

知の伝承と人づくりに携わる者は、〝温故知新〟を尊び、知を継承していく者が自身の〝存在の意味〟を悟り〝使命感〟を抱くように専心すべきである。学徒の心に火を付けるためにも、素晴らしい人生の礎となるものを学び続けることが求められる。

国際学院埼玉短期大学
学長　大野博之

学院創立50周年に寄せて

リーダーシップと責任感養う

学友会会長
水落　優希（幼児保育学科２年）

学院創立50周年おめでとうございます。この記念すべき節目の年に学友会会長という大きな役職に就かせて頂き、大変嬉しく思います。

私は国際学院埼玉短期大学に入学して、建学の精神である「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」や教育方針の「礼をつくし、場を清め、時を守る」を学校生活、学友会活動を通して学び、挨拶や学校内の清掃、10分前行動など当たり前のことを当たり前に行う大切さを知ることができました。

学友会では、今年度からエコキャップ運動や子ども虐待防止のオレンジリボン運動などのボランティア活動に慈愛の心を持って取り組みました。また、仲間を信頼しているからこそ、体育大会や五峯祭などの行事でどのように協力すれば、より素晴らしい行事になるか互いに意見を出し合うことができました。自分が仲間を信頼しなければ、頼ることもできず、頼られることも難しいと思います。仲間同士、お互い信頼し合うことで、大変だと思える行事も大成功のうちに終えることができたと思います。

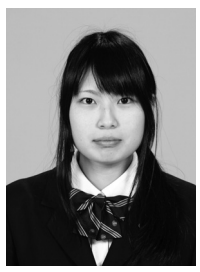
学友会会長を務めさせて頂いた当初は不安もありましたが、これまでの貴重な経験から、全学生の代表としてリーダーシップを発揮することで責任感を養うことができました。国際学院での学生生活は、残りあとわずかとなりましたが、この学友会を今以上により良いものにし、後輩達に引き継いでいきたいと思います。

伝統を踏まえ心新たに前進

高等学校生徒会会長
神田　春花（食物調理コース３年、上尾市立南中学校卒業）

国際学院は今年で学院創立50周年を迎えました。その長い歴史の中で、私が在籍しているのは３年間というとても短い期間です。しかし、50周年の今年は特に大きく学院が変わったように感じられました。

まず、新しく中学校が開校されました。私たち生徒会としては初めて中学校との合同での体育祭と五峯祭を、不安もありましたが、盛大に行うことができました。体育祭では中学生を含め各クラスが団結して優勝を目指し頑張りました。五峯祭では、50周年の試みとして生徒会が企画し、大規模なモザイクアートを先生方と生徒全員で作り、Ｔシャツコンテストを行いました。多くのクラスがコンテストに参加し、さらに、たくさんの来場者の方からの投票も受け盛大なものとなりました。五峯祭の２日目は台風の影響を受けましたが、それでも多くの方が来場して下さり、生徒たちが活気に溢れていたと思います。



これからも、学校がより良いものとなるように先輩方が築きあげてきた伝統を踏まえ、記念の節目にあたり、心新たに「今何をすべきなのか」「何ができるのか」を問い直し、あと残り少ない学校生活の中で一歩ずつ前進していきたいと思います。

食関連産業等を対象に人材養成等のアンケートを実施

寿司専攻コース　教育の標準化と段位制度の構築

中核的専門人材養成事業として選定された国際学院埼玉短期大学の取り組みは、医療・福祉・健康（食・栄養）の分野の産学官コンソーシアム「食関連産業の成長と健全な食生活の普及を牽引する中核的専門人材の育成」と職域プロジェクト「寿司専攻コースの制度構築及び実践」の２件である。本コンソーシアムは、渋川祥子・横浜国立大学名誉教授を代表として、構成機関には本学の他に、東京誠心調理師専門学校、名古屋文理大学短期大学部、聖徳大学、中川学園調理技術専門学校、㈱アールディーシーや㈱イトーヨーカ堂、日本ハム㈱等が加わり、本事業を連携して推進していくこととしている。

本コンソーシアムの事業の具体的な内容は、日本食や日本特有の食材を広く世界に普及させるための人材養成と国民の健全で豊かな食生活を支えるために食関連企業・外食業界で活躍する人材の養成を目的に食関連産業の動向を総括的に捉え、グローバルな視点から必要とされる人材像を抽出すること。さらに、それらの人材の持つべき資質やその養成・再教育等及び人材配置の在り方等の実情を踏まえて検討することを計画している。これまでにインターネットを活用したアンケート調査を実施し、その結果の分析に着手している。

また、本コンソーシアムは、３つの職域プロジェクトの支援・評価を行うこととしている。第１職域プロジェクトは本学が選定された「寿司専攻コースの制度構築及び実践」であり、第２職域プロジェクトは「日本食材を活かした料理の制度構築と実践検証」で東京誠心調理専門学校が中心となって実施し、さらに第３職域プロジェクトは「豊かな食を支えるシステムの提案と構築」で名古屋文理大学短期大学部が中心となって実施する。

この中の本学が中心となって推進する第１職域プロジェクトでは、伝統的な職人教育に依存していた寿司職人養成教育の標準化・グローバル化を図ること。国際的な質保証を伴う教育のフレームワーク（段位制度）を構築することを予定している。

さらに、コンソーシアムも各職域プロジェクトにおいても、本年度の活動報告書を作成し、３月に、東京・大手町の会場でフォーラムを開催し、本事業の成果を公表することとしている。

さいたま市と「教育コラボ」

研修会に講師を派遣

親子招き公開講座

本年度、短期大学とさいたま市との間で締結した「教育コラボレーション協定」に基づき、さいたま市が実施する研修会の講師を派遣したり、食育教室等を開催している。

研修会は、８月２日にさいたま市立教育研究所において短期大学の秋山佳代講師が「新規採用学校栄養職員・栄養士研修」「学校栄養職員・栄養士５・10年経験者研修」「新規採用栄養教諭研修」の講師を務めた。内容は、「個別的相談指導の進め方」と題し、食に関する健康課題を有する児童生徒への個別相談指導の重要性の理解と実践的指導力の向上を図ることを目的に24名の栄養士や学校栄養職員、栄養教諭等が参加して行われた。受講者は、研修内容とそれぞれの日常業務を照らして、改善が図れるよう真剣にメモを取っていた。

講師の手元を見る子どもたちの眼差しは真剣そのもの

また、８月６日には、「人づくりを科学する」を共通テーマとする短期大学の公開講座の一つとして「食育教室２０１３　親子で作る家庭の味」を開催した。

参加者は、７組14名の近隣の小学生とその保護者で、本講座の募集にあたっては、さいたま市教育委員会を通じて、短期大学近隣の小学校の各クラスに講座の案内を配布したり、さいたま市報等に掲載して募集を行った。内容は、「食育のおはなし」の講義と「和風チキン南蛮と手作り豆腐」の調理実習で、親子のふれあいを通して食への関心を深めるもの。

参加者した親子からは、「豆がつかめてよかった」「子どもが楽しんでお箸の使い方を練習できて良かった」「手作り豆腐がとてもおいしくできて満足です。早速、主人や息子たちにも作ってあげます」「来年も参加したい」等の感想が寄せられている。

五峯祭を終えて

多くを経験し学び感動！

創立50周年にふさわしい内容に

学生五峯祭委員長 執行なる美（幼児保育学科2年）

学院創立50周年という記念すべき年に学生五峯祭委員長という大役を務めさせて頂き、様々な経験を通して多くのことを得ることができました。時には一人では解決できないような壁に突き当たることもありました。そのような時、副委員長をはじめ、五峯祭総括や学生委員の仲間、そして、先生方のご指導・ご助言を参考に少しずつ問題を解決していきました。

今回、委員長を務めさせて頂いた中で、常日頃から学院長先生がおっしゃっている「報告・連絡・相談・確認」の大切さを改めて実感するとともに、その場に応じた臨機応変な対応の仕方、委員長として先を見据えた指示を出すことの難しさを学ぶことができました。そして、大変だと感じることが多々ありましたが、頼もしい仲間の協力もあり、授業・実習で学んだことの成果を発揮し、学院創立50周年にふさわしい五峯祭を開催できたと思います。開会式では、幼児保育学科2年D組のとても素晴らしいセレモニーから始まり、五峯祭2日間を通して、多くのお客さまにご来場頂きました。これまで一生懸命に準備してきた学生もご来場頂いたお客さまも、たくさんの笑顔があふれる五峯祭になったのではないかと思います。

最後に本学の伝統である五峯祭の素晴らしさを後輩に引き継ぎ、来年もより良い五峯祭になることを願っています。そして、今回ご協力頂いた多くの皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

第28回幼児絵画展を終えて

感動の絵画800点

子どもの発想力・想像力・世界観に感銘

幼児絵画展学生委員長 長山 千愛（幼児保育学科1年）

第28回を迎えた幼児絵画展がより良い展覧会になるよう、先生方と学生委員が協力して取り組みました。準備中は子どもたちが描いた絵に触れる機会が多く、絵の具やクレヨンを使って一生懸命に絵を描いている様子が目に浮かびました。そして、展示された絵を見に足を運んでくださるご家族の方や子どもたちが喜ぶような絵画展にしたいという気持ちが強くなりました。

子どもたちが描いた絵は、どれも思い浮かべたことがそのまま画用紙に表現されていて、個性があり、子どもの純粋な気持ちが絵に表れていました。その発想力、想像力、世界観に感銘を受けました。五峯祭当日は絵画の案内係を担当していましたが、来校されたお祖母さんから「子どもたちが描いた絵を見て、久しぶりに心がほっこりした」と声をかけて頂き、子どもの持っている力は凄いなと改めて感じました。また、幼児絵画展の委員会活動を通して、幼児保育学科の先生方や他クラスの仲間と深く関わることができ、絵画展をより良い展覧会にするという1つの目標に向かって1人ひとりが責任を持って役割を果たし、行動することができました。その結果、五峯祭当日や準備・撤収もスムーズにやり遂げることができました。

我が子が描いた絵を見つけたときの保護者の方の嬉しそうな顔や賞状を手にしたときの嬉しいけど恥ずかしくて照れている子どもの姿を見ていると、私たちも自然と笑顔になり、やりがいを感じて取り組むことができました。

力作が並ぶ幼児絵画展

平成25年度体育大会を終えて

リーダーシップの必要性学ぶ

体育大会学生委員長 海老原尚也（健康栄養学科栄養士専攻2年）

私は、今年度の体育大会委員長を務めさせて頂きました。1年生の時から体育大会総括委員として大会のための準備活動をしてきましたが、振り返ると当時の2年生からの指示をこなしているだけで、名簿の作成など事前準備に関することや当日の各係の動きについて、把握していなかった点が多くありました。私は、昨年度の先輩方に頼りきりになっていた記憶が強く残っていたため、自分が委員長になった時、きちんと体育大会を運営することができるか、1年生たちを引っ張っていくことができるかとても不安でした。ですが、体育大会が終わった今、当日までのことを振り返ってみると、成功に終わったのではないかと思います。

事前準備の段階では、体育大会総括委員全員で協力しながら作業を終えることができました。特に健康栄養・幼児保育学科の2年生は、実習で忙しい期間ではありましたが、時間を見つけて体育大会の準備を進めることができました。どんなに忙しくても皆で協力することができたので、一つの仕事をスムーズに終えることができたと思います。

そして、体育大会当日は委員全員で取り組み、全体の様子を把握しながら運営することに努めました。そのため、円滑にプログラムを進めることができ、とても楽しい体育大会になりました。また、体育大会委員長を経験して、組織におけるリーダーシップの必要性と、リーダーとしての留意点を学ぶことができました。本学を卒業した後も、今回の経験で学んだことを社会人として就職先で活かせるよう努力していきたいです。

学友会活動を通じて

学生相互の協力実を結ぶ

新たな活動にもチャレンジ

短期大学学友会副会長 中井 美歩 健康栄養学科栄養士専攻2年

私は、学友会副会長として様々な経験をさせていただいています。

私は人前に出て話をしたり、指示を出すことが苦手でした。そのため、学友会の活動はとても苦労をしましたが、執行役員や先生方と協力してここまで来ることができました。

活動を行っていくうえで仲間たちとどのように行っていくかなどは話し合い、計画を立て、作業を行ってきました。思うように進まず苦労したこともありましたが、先輩たちが行ってきた様々な活動を引き継ぎつつ、新しいことも行ってきました。そうした活動をここまでやってこれたのは、支援して下さった先生方の力が大きかったと思います。

今までの先輩たちが行ってきたボランティア活動の呼びかけなどを継続しつつ、今年度は新たに、エコキャップ運動やオレンジリボン運動、また学院創立50周年に伴い記念品を作成し配布しました。体育大会では学院創立50周年を記念し、学院に関する○×クイズを行いました。子供夏祭りボランティアでは準備段階の打ち合わせから参加させていただき、夏祭り当日はかき氷、絵本コーナーの運営などの手伝いをしました。たくさんの方が参加してくれてとても良い活動となりました。

いま振り返ると、仲間たちや周りの方々の協力があったからここまでの活動ができたのだと改めて実感しています。学院は創立50周年を迎えましたが、これから更に良い活動ができるように、残りの期間も責任を持って活動を行っていきたいと考えています。

先輩たちが行ってきた活動や私たちが行ってきた活動を、しっかりと後輩たちに引き継いでいきたいです。

「ご飯に合う彩り主菜料理」テーマ

第21回味彩コンテストに参加

初出場で緊張気味の川辺さん

地産地消の重要性再認識

健康栄養学科栄養士専攻2年 川辺 麻衣

私は、平成二五年八月三一日に国際学院埼玉短期大学で開催された、埼玉県産の黒豚・野菜を使用した〝ご飯に合う彩り主菜料理〟を審査の課題とする第21回「味彩コンテスト」に出場しました。本コンテストは、地域社会や一般家庭の食生活の改善、健康増進に役立たせることを目的に平成五年に創設されたものであり、毎年、一般市民を対象に健康づくりに有用な献立のアイディアを募集し実施しています。本コンテストの中には「一般の部」と「高校生の部」の二つがあり「一般の部」で出場しました。コンテストに出場することは私自身初めての体験で、実際に審査されながらの調理はとても緊張するものでした。コンテストに向けて家や学校などで材料の切り方、味付け調理時間の配分などを考えて練習したこともあり、レシピに基づいた調理がスムーズにでき、三〇分間という調理時間はあっという間に終了し短いと感じました。

審査が終わり、結果発表になるとさらに緊張感に包まれました。学長賞、埼玉県知事賞、さいたま市長賞、埼玉県教育委員会教育長賞、さいたま市教育委員会教育委員賞のほか各種の賞が贈られましたが、そのなかで、私はNHKさいたま放送局長賞をいただく事ができました。

コンテストに出場してみて、改めて地産地消の重要性や栄養バランスに配慮した食事の重要性について考えることができ、健康に対する考え方が変わりました。私は、来春から栄養士として保育園勤務が内定しています。子供たちの食育に関わる業務を通して、健康や知産地消を考えた献立、栄養調理が出来るよう、これからも一層の努力を重ねていきたいと思います。

射撃部

日本一を輩出、二連覇達成

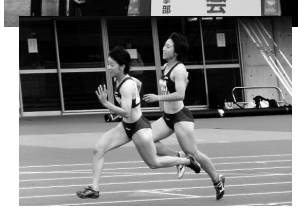
顧問　角谷　理沙

射撃部は、『全国制覇』という目標を掲げ、日々活動に取り組んでいる。

４月の全日本ジュニアビームライフル射撃大会において、男子の部で吉澤俊くんが7位、山﨑一輝くんが8位入賞を果たした。６月の関東大会では、ビームライフル女子団体戦準優勝、個人戦で阿部美咲さんが準優勝、ビームピストル女子で関根留菜さんが6位に入賞した。東日本大会では、エアライフル女子個人戦で阿部さんが準優勝、エアライフル男子で吉澤くんが４位に入賞した。

目標である全国大会には6名が出場し、ビームライフル女子団体戦は昨年に続き3位入賞、個人戦では阿部さんが5位に入賞した。8月の全関東選手権大会では、エアライフル男子で吉澤くんが準優勝、ビームピストル女子で関根さんが5位に入賞した。1年生の関根さんは国体の埼玉県代表選手となり、関東ブロック大会では惜しくもあと1点で国体出場を逃したものの今後の活躍が期待される。また、9月のＪＯＣジュニアオリンピックカップに5人が出場し、ビームライフル女子で阿部さんが優勝、2連覇を達成。ビームライフル男子では吉澤くんが3位入賞。また、エアライフル女子で、現在中央大学で活躍している卒業生の諏訪晶子さんが優勝し、同時に日本一を2人輩出することができた。また、阿部さんは日本オリンピック委員会のＪＯＣカップも受賞し、受賞した9月8日は2020年の東京オリンピック開催が決定したこともあり、記憶に残る大会となった。今後も全国制覇に向けて邁進していく所存である。

射撃部


陸上競技部

陸上競技部

4年連続インターハイ出場

顧問　兒玉　隆弘

陸上競技部は、7月28日から大分県の大分銀行ドームで開催された全国高等学校総合体育大会に7種目で出場した。2010年から4年連続でのインターハイ出場である。

女子400m・400mハードルの串田遥香さん、同じく女子400mハードルの野口香音さん、女子走高跳の飯田夏鈴さん、女子走幅跳の清水ちはるさん、そして女子4×100mリレーでは、辻本星菜さん、落井優華さん、三浦海友さん、星美生さん、女子4×400mリレーでは、野口香音さん、落井優華さん、三浦海友さん、串田遥香さんが出場した。今年度は、「全国入賞」を目標に日々研鑽してきた。そのため、今大会に向けて、選手一人ひとりが部訓である凡事徹底を胸に様々な準備をしてきた。

入賞の期待がかかった主将である串田さんの400mハードルは予選を見事突破し準決勝進出。迎えた準決勝でも全国の強豪相手に自分の力を発揮したものの、惜しくも決勝進出はならなかった。埼玉県大会で優勝を果たした女子の4×400mリレーは予選を突破し、準決勝進出。4人の力を合わせ、全国の頂点を目指したが、あと一歩で決勝進出を果たせなかった。その他の種目でも選手は力を発揮したが、目標である全国入賞には届かなかった。

今大会を通して、全国の頂点が確実に近づいていることを実感した。一方で目標を達成することができなかった悔しさがあり、来年こそは全国の頂点を目指せるようチーム作りをしていきたいと考えている。

バボ部
女子ビーチバレー

ビーチバレーで活躍

顧問　藤本　泰宏

女子バレーボール部の監督に就任し5年目。昨年は6人制で関東私学大会に出場し、そして今年は2年ぶりにビーチバレーで全国大会出場を果たした。

今年度の埼玉県大会では、17チームがエントリーした。準決勝では2年生の武石咲さん、横井文寧さんペアのうち、武石さんが軽

い熱中症にかかりつつも強い意志で試合に臨んだ経緯が優勝に結びついた。

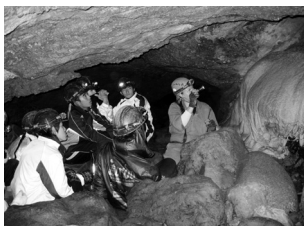
全国大会のマドンナカップ女子ジュニア選手権は愛媛県で開催された。日本代表選手に選出されている高校生も出場する中、本校ペアは残念ながら決勝トーナメントに進むことは出来なかった。しかしこの経験をビーチ・6人制共に活かし、全国を目標に掲げ活動していく所存である。

生徒にはスポーツマンシップ、ホスピタリティ、フェアプレイ精神、そして五つの建学の精神を基礎として、叱られることの大切さがわかる選手になってほしいと願っている。「叱る」こと「褒める」事は同義語と思っており、この考えが浸透するよう努めている。

監督という言葉は英語で「コーチ」、その語源は「幌馬車」、人間を目的の場所に届けるというものだ。バレーボール部が更なる高みに届くチーム作りをしていく所存である。

海外研究

海外研修、語学研修、国内研修を実施


洞窟探検中

第二学年の海外研究は、本校の建学の精神及び教育方針を基に、異文化体験を通じて国際理解を深めるとともに、規律正しい集団行動から協調性・実行力・責任感を養うことを一般目標（ＧＩＯ）とし、授業の一環として行われる。

海外研修コースは、二班体制で、姉妹校提携している高校訪問、二泊三日のホームステイ、小学校・デイケアセンター・シニアホームへのコース別訪問、バンクーバー・ビクトリアでの班別研修などを経験した。高校訪問では、一班がソーラン節、二班が大縄跳びを披露した。ホームステイ最後の「さよならパーティ」では涙の別れが見られた。

語学研修コースは、バンクーバー島のナナイモでホームステイをしながらＶＩＵの語学研修プログラムに参加し、授業やアクティビティに意欲的に取り組んだ。十四日間でホストファミリーとも積極的にコミュニケーションをとれるようになり、高い成果を挙げることができた。

国内研修コースは、福島県のブリティッシュ・ヒルズで二泊三日の語学研修を体験した。ネイティブ講師による英語の授業に積極的に臨み、実りの多い研修となった。また、座禅体験や博物館見学などを通して日本文化の再発見をした。

三コースともそれぞれ大変充実した研修となった。この成果は、英字新聞として、発行する予定である。

この研修で得た成果や自信を今後の進路活動に繋げ、各々の生徒が来年度の進路結果に結び付けてくれることを期待したい。

高校進学合宿

仲間と切磋琢磨し学力向上

夏季休業中の恒例行事である立正大学の熊谷キャンパスでの夏季進学合宿が、8月6日より8月9日までの3泊4日の日程で実施された。この合宿は第1学年から第3学年まで全学年特選・特進コースの生徒が参加して行われる。ここ最近では、3年生の気迫に負けず、1年生、2年生が休憩時間に積極的に参考書を開いて勉強する姿が見られ、熊谷という場所柄もあって、「熱い」学習への取り組みがなされている。

熱い夏季合宿in熊谷

今年も例年以上の成果を上げられたものと確信している。授業に臨む真剣な眼、自習時間にひたすら問題を解く姿、仲間と切磋琢磨しながら学力の向上を目指す姿がとても印象的であった。毎年の積み重ねにより、先輩から後輩へとよき伝統が確かに受け継がれていることを感じることができた。どの生徒も、いわゆる受験学力の向上に努めることができるこの合宿は、進学実績向上の牽引力であるよき伝統のひとつとして、来年度の生徒たちへと継承されていくのであろう。

「一流の進学校」に成長するために、国際学院の進学熱はますます温度を上昇させている。

ユネスコ活動――中学校高等学校でのＥＳＤ（持続発展教育）

本校はユネスコスクールに加盟しており、国際理解教育と環境教育をＥＳＤの柱として教育活動を展開している。

国際理解教育では、今年の4月と5月に埼玉県の事業による台湾の国立高等学校（鳳山高級中学・豊原高級中学）からの修学旅行を受け入れた。両校ともに教員・生徒約40名が来校し、授業体験や敦照殿でのお茶会、ゲームなどを通して交流を図ることができた。

また、今年は留学生を複数名受け入れ、4月からアメリカ、オーストラリア、9月からはドイツより各1名が学習している。留学生と共に学ぶことができる環境は生徒にとっては語学への学習意欲向上のみならず価値観を広げることにもつながるため、今後も積極的に受け入れていきたい。

環境教育では、今年は新たにユニクロが主催する「服のチカラプロジェクト」に参加し地域との関係を深めている。これは古着を集め難民キャンプに届けるという事業で、6月にユニクロから講師を招いて講義を受けた。その後、伊奈町内回覧板にて回収を呼び掛けた結果、五峯祭ではおよそ1400着を回収することができた。中には200着以上を持参してくださった方もおり「ぜひ来年も回収してほしい」という声も伺っている。

エコキャップ回収についても継続して行っており、9月26日現在、累計41万9450個（ワクチン502・0人分）に達している。こちらについても継続して回収を呼び掛け、地域と一体となって環境教育に取り組んでいきたい。

第16回五峯祭　学院創立50周年記念

9月14日(土)・15日(日)の両日、中学校高等学校の第16回「五峯祭」が挙行された。台風の影響もあり、二日目は開催時間を短縮せざるを得なかったが、多くの来場者を迎えることができた。

今年は「Next 50 years ～僕らの未来～」のテーマのもと、学院創立50周年を記念したモザイクアートを全校挙げて作製し正面玄関前に飾るなど、生徒の意気込みが強く感じられた。また、「ユニクロプロジェクト」に参加して地域の方々にも古着の提供を呼びかけ、数多くのご協力をいただくことができた。

本校の五峯祭は開学以来、日頃の学習成果を発表する場である。最優秀賞には3年A組「バスソルト作り」が選ばれ、さすが最上級学年と思わせる内容であった。

今年4月に開校した中学校も初参加し、英語スピーチや合唱を披露するなど精力的に活動する姿がみられた。

部活動では、射撃部が恒例の射撃体験を行い、サッカー部と女子バレーボール部は招待試合を実施。吹奏楽部は本格的な演奏で観客を魅了した。調理研究同好会の氷彫刻は、今年も「美」と「涼」を提供した。

調理師専攻の模擬店は毎年人気の出し物の一つで、きびきびした動きは小気味よく、保護者会からは、リースの手作り体験やバザーが催され大好評であった。また、伊奈町備前太鼓は、天候の影響で体育館での公演となったが、例年通り花を添えるものであった。

来年もこの良き伝統を引き継ぎ、更に充実・発展していくことを在校生諸君に期待する。

中学校英語キャンプ

頭と体を使い反復練習

去る7月29日(月)～8月1日(木)の3泊4日で那須オオシマフォーラムにて中学1年生が英語漬け合宿を行った。この英語合宿では、GTEC for STUDENTS中高一貫校中1生版において、①自校の定める目標点を取ることができる。②全校レベルの学力を知り、自己学習力を高めることができる。を学習のねらいとした。

合宿では、未習の難易度の高い文法事項を習得させるために、普段の机上の学習だけではなく、頭と体を使い反復練習を行った。夕食後も、1日のまとめテストを毎回行い、夜遅くまで勉強に励んだ。最終的には3泊4日で述べ16時間もの英語授業を行った。

英語漬け合宿in那須

最終日、今回の英語合宿で習った文法の総復習として「英語版宝探しゲーム」をし、チーム対抗で英語のクイズに挑戦し、大いに楽しみながらも文法力をつけることができた。

ＧＴＥＣの結果、「聞く力」では県内の中高一貫校で第2位、「読む力」では第5位。特に、「聞く力」では、全国平均スコア83・1に対し、本校は88・3と大きく上回る結果となり、キャンプでの学習成果が反映された。今後も生徒の可能性を十分に伸ばし、成長させていきたい。